

平成 31 年 5 月 1 日現在

機関番号：23702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11554

研究課題名(和文) 看護実践能力とキャリア開発を担う臨床教育指導者が用いる看護師育成プログラムの構築

研究課題名(英文) Developing a nurse training program for clinical education instructors responsible for clinical nursing competence and career development

研究代表者

星野 純子 (Hoshino, Junko)

岐阜県立看護大学・看護学部・准教授(移行)

研究者番号：50369609

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、看護師の臨床教育からの学習(以下、教育による学習)を測定する質問紙を開発し、看護師の教育による学習と看護実践能力との関連をみる質問紙調査を実施した。

看護師は、教育により次のことを学習していた：【看護の基本の習得】【仕事に対する視野の拡大】【人としての自己の成長】【自部署での業務能力の習得】【看護職としての自律性の習得】。これら5因子と看護実践能力13のコンピテンスには、相関係数0.13-0.33の範囲ですべて有意な関連がみられた。また、看護実践能力13のコンピテンスすべてに関連がみられた教育による学習の因子は、【看護職としての自律性の習得】と【人としての自己の成長】であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、開発する看護師の臨床教育からの学習尺度について、実践ですぐに活用できるものとするために、現在、臨床教育としてすでに病院で実践されている看護師への教育を学習項目として用い、臨床で学習している看護師を対象に調査を行った。本尺度を実施することで、教育者からの教育と受け手である看護師の学習が合った学習になっているのか測定することができる。また、看護実践能力と関連がみられた【看護職としての自律性の習得】と【人としての自己の成長】といった学習因子は、看護師が教育から学び取り自己の能力をあげることに繋がっている学習であると考えられ、教育プログラムに組み入れていくことが求められる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the factor structure of learning that nurses working at a hospital acquire from clinical education in order to develop the scale of learning from clinical education of nurses. Also, we elucidate the relationship between what nurses working in hospitals have learned so far through clinical education and clinical nursing competence. The scale were extracted: [acquisition of basic nursing], [expanded view toward work], [self-growth as a person], [acquisition of competency to accomplish work at one's own department], and [acquisition of autonomy as a nurse professional].

The results showed that all 13 clinical nursing competencies and 5 factors of learning were significantly associated within the coefficient range of 0.13-0.33. The results of the multiple regression analysis showed that factors of learning associated with all 13 clinical nursing competences were "acquisition of autonomy as a nurse professional" and "self-growth as a person."

研究分野：看護管理学、在宅看護学、老年看護学

キーワード：看護師 看護管理学 人材育成 学習 看護実践能力 キャリア発達

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

本邦では、医療現場の諸課題に対し科学的根拠に基づいた医療が提供できる優れた医療人を養成するために「課題解決型高度医療人材養成プログラム」や「看護師の人材養成システムの確立」、「福祉介護人材キャリアパス支援」事業が実施され、特に看護の分野では看護実践能力の高い看護師を育成するために病院の看護師から優れた教育指導者を養成することが国の重点課題となっている。看護職の院内教育は病院組織、各病棟等での教育に分けられ、これらが連携することで看護師に効果的な教育を行うことができると考えられている。近年、各病院は質の高い看護を提供するための組織的な教育プログラムを開発し実践しているがその効果はまだ報告がみられない。一方、地域包括ケアシステム構築に向けた看護の強化として公益社団法人日本看護協会は「在宅・介護領域の看護人材確保と育成」を掲げ、研修体系の提案等の取り組みを行っているが先行研究は少なく、高齢者施設では手探り状態の看護師教育が続いている。

看護実践能力とは、単に看護技術力ではなく、看護の基本に関する実践能力、健康レベルに対応した援助の展開能力、ケア環境とチーム体制の調整能力、看護実践のなかで研鑽する能力が主となる概念であることや人々・状況を理解する力、人々中心のケアを実践する力、看護の質を改善する力が主要な能力構造であることなどが近年報告され、看護師にこれらの能力を育成するためには、これら1つ1つの能力に対する教育指導者が行うエビデンスのある具体的な教育プログラムが必要である。

## 2. 研究の目的

本研究は、看護師の看護実践能力とキャリア開発を担う臨床教育指導者が用いる看護師育成プログラムを構築することを目的とする。具体的には、看護師が受けた臨床教育からの学習が測定できる質問紙を開発し、看護師の教育からの学習と看護実践能力、キャリア発達との関連を明らかにする。

## 3. 研究の方法

### (1) 看護師の臨床教育からの学習(以下、教育からの学習)に関する質問紙の開発

看護師の組織内教育による学習項目案(以下、項目案とする)を構成する下位概念と質問項目案は、我々の先行研究「病棟看護師長が行っている看護師のキャリア発達のための支援」<sup>1-2)</sup>を基盤として、その他の看護師への教育、臨床教育者に関する先行研究や書籍等から検討した。回答は5段階のリッカート法とした。得点が高いほど、看護師が学習していることを示すように設定した。

項目案の内容妥当性と表面妥当性を検討するために、作成した質問項目について、研究者間による検討と看護部長、看護師長、経験年数の異なる看護師といった臨床の看護師による専門家会議を開催して検討した。検討の結果をうけて質問項目は、内容を見直し表現を変更したり、一部の表現を削除や追加したりした。検討後、質問項目は53項目となった。

質問紙を開発するための調査対象は、A県内の病院に勤務している看護師であった。調査方法は、郵送による質問紙調査であった。2次医療圏で無作為抽出した病院の看護管理者に調査を依頼することから開始した。調査協力の可否については、はがきを用いて大学まで返信してもらった。調査協力が得られる場合、必要分の質問票等を病院に郵送し、看護管理者より看護師へ「研究の説明書」「質問票」「返信用封筒」等一式を配布してもらった。看護師の質問票の大学への返信をもって同意とした。

分析方法は、尺度原案に対する選択肢の回答の分布をみて、項目分析として天井効果、床効

果の確認を行った。次に、探索的因子分析を行い、主因子法、プロマックス回転を繰り返した。尺度の信頼性について、Cronbach's 係数を算出するとともに、I-T 分析 (Item-Total Correlation Analysis) を実施した。これらの分析には、SPSS 20.0J for Windows を用いた。また、構成概念妥当性について、探索的因子分析により得られた因子構造モデルの適合度を検証するための確認的因子分析を行った。モデルの適合度の指標には、GFI、AGFI、CFI、RMSEA を用いた。分析には、SPSS Amos22.0 を用いた。有意水準は5% (両側) とした。

本研究は、研究者の所属する研究倫理委員会の承認を得て実施した。研究対象である看護師への質問紙調査は、病院の看護管理者の承諾を得て実施した。研究目的、研究方法、参加の自由、データの取り扱い等について、研究対象へ文書で説明した。質問票には、氏名、住所、生年月日などの個人情報を含まなかった。

## (2) 看護師の教育からの学習と看護実践能力との関連に関する調査

看護師の教育からの学習と看護実践能力との関連に関する調査対象は、A 県および隣接する B 県内の病院に勤務している看護師であった。対象の募集方法は、県の地域保健医療計画に基づく病院に対し、2 次医療圏ごとに病院を無作為に抽出し、調査を依頼した。協力の得られた 52 病院の看護師 2552 名に自記式質問紙調査を郵送した。

質問紙調査の内容は、臨床教育による学習(上記調査結果から 5 つの下位因子より構成:【看護の基本の習得】【仕事に対する視野の拡大】【人としての自己の成長】【自部署での業務能力の習得】【看護職としての自律性の習得】)、年齢、経験年数、クリニカルラダー活用の有無などの基本的項目と既存尺度である看護実践能力自己評価(4 つの概念のもと 13 のコンピテンスから構成)であり、開発者から了承を得て用いた。臨床教育による学習と看護実践能力との関連をみるための交絡因子は、年齢、勤めている施設の病床数、職位、メンターの有無、指導役割経験の有無、学習機会の程度、上司や同僚、家族などからのサポートの程度、看護観や人間観を考える機会の程度、喜びや自信を感じる程度などとした。分析には、Pearson 積率相関係数、重回帰分析を用いた。

質問紙を郵送する際は、本研究の目的、方法、プライバシーの保護、調査参加の自由などを記載した研究の説明書を同封し、研究の趣旨等を理解して研究参加に同意していただけるようにした。また、本研究は、研究者が所属する大学の研究倫理委員会の承認を得て実施した。

## 4. 研究成果

### (1) 看護師の臨床教育からの学習(以下、教育からの学習)に関する質問紙の開発

#### 調査協力者の概要

調査協力に了承の得られた 44 病院に質問票を 1651 名分送付し、807 名回収した(回収率 48.9%)。そのうち、学習尺度の項目に未回答項目がある調査票を除いたところ、有効回答数は 720 名(有効回収率 43.6%)であった。対象者は、40 歳代の者が 247 名(34.3%)と多く、次に 30 歳代 221 名(30.7%)、50 歳以上 136 名(18.9%)であった。性別は女性 590 名(88.6%)、基礎教育機関について専修学校・専門学校である者は 616 名(85.9%)と多かった。看護職としての平均勤務年数と標準偏差は  $16.3 \pm 9.1$  年であった。

#### 探索的因子分析

探索的因子分析は、53 項目すべてを投入し、主因子法回転なしで実行し、固有値 1 以上の因子を採用したところ、因子数は 5 であった。また、その時の累積寄与率は 70.5%であった。次に、主因子法プロマックス回転を繰り返した。

第1因子は、看護師が看護実践に取り組む際の基本姿勢に関する内容の学習であったため【看護の基本の習得】と命名した。第2因子は、自分の仕事をより大きな立場や多様な視点からみられることを学習する内容であったため【仕事に対する視野の拡大】とした。第3因子は、周りからの教育や支援により自分自身が成長するという内容であったため【人としての自己の成長】とした。第4因子は、所属する部署での業務や役割を遂行する力の学習であったため【自部署での業務能力の習得】とした。第5因子は、看護の専門職者として看護師の業務を自律的に行うことを学習する内容であったため【看護職としての自律性の習得】とした。

### 信頼性と妥当性の検討

信頼性について、Cronbach's  $\alpha$  係数がいずれも0.8以上であったことから内的整合性を有すると判断するとともに、I-T分析の結果からも一貫性を有すると確認し、信頼性を確保していると判断した。

構成概念妥当性については、構造方程式モデリングを用いた確証的因子分析を行ってモデルの適合度を確認したところ、RMSEAの値はやや高いものの他の値からモデルの説明力が確保されていると判断した。

## (2) 看護師の教育からの学習と看護実践能力との関連に関する調査

### 調査協力者の概要

看護師の教育からの学習と看護実践能力との関連に関する調査について、回収した質問票は1243票（回収率48.7%）であった。そのうち、臨床教育による学習および看護実践能力自己評価尺度に欠損がない944名を解析対象とした。解析対象の年代は、40-50歳未満の者306名（32.5%）と多く、次に30-40歳未満の者283名（30.0%）、30歳未満の者184名（19.5%）、50歳以上の者170名（18.0%）であった。女性781名（90.0%）であった。勤めている病院の病床数は、20-99床未満68名（7.3%）、100-499床未満686名（73.3%）、500床以上182名（19.4%）であった。

### 看護師の教育からの学習と看護実践能力との関連

単変量解析の結果、看護実践能力13のコンピテンスすべてと臨床教育による学習5因子は、相関係数0.13-0.33の範囲ですべて有意な関連がみられた（以下、表に示す）。重回帰分析の結果、看護実践能力13のコンピテンスすべてに関連がみられた臨床教育による学習の因子は、【看護職としての自律性の習得】と【人としての自己の成長】であった。

表 看護師の臨床教育による学習と看護実践能力との相関係数

すべて:  $p < 0.05$

-看護実践能力自己評価(4つの概念のもと13のコンピテンスから構成)

	看護の基本に関する能力	ケアの展開能力										看護実践の中で研鑽できる能力			看護実践能力(達成の程度)
		健康レベルに対応した援助の展開能力					ケアの環境とチーム体制の調整能力					専門性の向上	質の改善	継続学習	
		基本的責務	倫理的実践	援助的人間関係	クリニカルジャッジメント	看護の計画的な展開	ケアの評価	ヘルスプロモーション	リスクマネジメント	ケアコーディネーション	看護管理役割遂行				
臨床教育による学習	看護の基本の習得	0.23	0.252	0.155	0.195	0.26	0.213	0.18	0.216	0.157	0.211	0.188	0.22	0.195	<b>0.247</b>
	仕事に対する視野の拡大	0.212	0.228	0.2	0.227	0.248	0.229	0.181	0.226	0.198	0.248	0.236	0.284	0.246	<b>0.27</b>
	人としての自己の成長	0.225	0.258	0.267	0.245	0.274	0.268	0.255	0.248	0.216	0.278	0.293	0.303	0.272	<b>0.311</b>
	自部署での業務能力の習得	0.225	0.24	0.136	0.209	0.229	0.186	0.133	0.219	0.152	0.241	0.162	0.241	0.189	<b>0.234</b>
	看護職としての自律性の習得	0.246	0.284	0.229	0.259	0.308	0.282	0.241	0.288	0.242	0.316	0.287	0.329	0.3	<b>0.329</b>
	臨床教育による学習総得点	0.263	0.292	0.229	0.263	0.305	0.273	0.23	0.277	0.223	0.299	0.27	0.318	0.278	<b>0.322</b>

### 引用文献

- 1) 星野純子、栗田孝子、西田友子：病棟看護師長が行っている中堅看護師のキャリア発達のための支援-看護師のキャリア発達を促す看護師長の役割モデルの構築に関する研究より-，日本看護学教育学会誌第26巻，55-67，2016
- 2) 西田友子、星野純子、栗田孝子：看護師長による若手看護師のキャリア発達への支援，日本看護学教

育学会誌第 26 巻，43-55，2016

参考文献

星野純子，栗田孝子：A 県内病院における病棟看護師長の教育的役割と業務内容，日本看護学教育学会誌第 25 巻，79-86，2015

栗田孝子，星野純子：病棟看護師長の看護観に関する質的帰納的分析，日本看護医療学会雑誌第 17 巻，34-41，2015

中神友子，星野純子，栗田孝子：患者中心の看護実践のための病棟看護師長の看護マネジメント，椋山女学園大学研究論集社会科学篇第 45 号，83-96，2014

中神友子，星野純子，栗田孝子：患者マネジメントに焦点をあてた病棟看護師長の役割と課題，医学と生物学第 156 巻，635-643，2012

## 5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 3 件)

星野純子，西田友子，古川直美，橋本麻由里，堀田将士，武藤英理：臨床教育による学習と看護実践能力との関連，第 38 回日本看護科学学会学術集会，2018

西田友子，星野純子，古川直美，橋本麻由里，堀田将士，武藤英理：病棟看護師における臨床での教育による学習に関する尺度の交差妥当性の検討，第 38 回日本看護科学学会学術集会，2018

星野純子，西田友子，古川直美，橋本麻由里，堀田将士，武藤英理：看護師の臨床教育による学習尺度に関する検討，第 37 回日本看護科学学会学術集会，2017

〔図書〕(計 1 件)

星野純子，西田友子，古川直美，橋本麻由里，堀田将士，武藤英理，栗田孝子，印刷の一誠社，看護実践能力とキャリア開発を担う臨床教育指導者が用いる看護師育成プログラムの構築，2019，1-80

## 6．研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：西田 友子

ローマ字氏名：NISHIDA Tomoko

所属研究機関名：椋山女学園大学

部局名：看護学部

職名：講師

研究者番号(8桁)：70621762

研究分担者氏名：古川 直美

ローマ字氏名：FURUKAWA Naomi

所属研究機関名：岐阜県立看護大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：40290035

研究分担者氏名：橋本 麻由里  
ローマ字氏名：HASHIMOTO Mayuri  
所属研究機関名：岐阜県立看護大学  
部局名：看護学部  
職名：教授  
研究者番号(8桁)：40228424  
研究分担者氏名：堀田 将士  
ローマ字氏名：HOTTA Masashi  
所属研究機関名：岐阜県立看護大学  
部局名：看護学部  
職名：助教  
研究者番号(8桁)：30769625

## **(2)研究協力者**

研究協力者氏名：栗田 孝子  
ローマ字氏名：KURITA Takako  
研究協力者氏名：武藤 英理  
ローマ字氏名：MUTO Suguri

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。